

## お前

香芝市立香芝北中学校3年 小野山 慶

先日、プロ野球のある球団がある応援歌の使用を自粛しました。その応援歌は「サウススポー」という歌なのですが、その球団ではチャンスの場面で歌うチャンステーマとして使用していました。高校野球中継でもよく聞こえてくるテーマで、小学生から大人まで、野球が好きの人なら誰もが口ずさめるような長年にわたっての人気曲です。何年も前から歌われてきたこの応援歌をなぜ今更使用を自粛するのか。その理由は自分には予想できないものでした。

「サウススポー」には『お前が打たなきゃ誰が打つ』という歌詞があります。この部分はこの曲のサビであり、この歌を知っている人なら当たり前のよう歌えます。しかし「サウススポー」の使用自粛の理由はこの歌詞にあります。歌詞の中の“お前”という言葉が選手に対して失礼・不適切なのではないかという理由です。自分では何年も前から知っている応援歌であって、先輩たちの試合で何度も歌ったけれどそんな違和感を感じませんでした。野球をあまり知らない人が何かの機会にこの応援歌の歌詞を知って勝手に批判したのかなと思いました。しかし驚くことにこの発言は「サウススポー」をチャンステーマとして使用しているその球団の監督が代表して言ったらしいのです。

その球団が「サウススポー」の使用を自粛すると発表した日から世間では様々な意見が飛び交い、賛否両論が出ています。自分の意見としては「サウススポー」の使用を自粛しなくてもいいと思います。歌詞の中に“お前”が入っている応援歌は今までもたくさんあります。有名な応援歌では、現日本代表監督の現役時代の応援歌、日本代表のある主力選手の応援歌に“お前”が入っています。

“お前”が入っているからという理由で「サウススポー」の使用を自粛するのなら、“お前”が入っている応援歌を全て否定していることになります。それに高校球児たちの憧れであるプロの球団が使用自粛となると高校球児たちも使用しづらくなります。だんだんと使われなくなってくると「サウススポー」が絶滅する可能性もあると思います。

「サウススポー」の使用自粛の理由はもう一つあります。“お前”という言葉は子どもの

教育上よくない。という理由です。この理由だけを聞くと“お前”という言葉は悪い意味を持つ言葉だと言っているようです。「サウススポー」の使用自粛を提起した監督は「“お前”よりも選手達の名前で呼んであげたほうがいいという意見が多くあったので歌詞の改善を求めただけ。“お前”が悪いという意味ではない。」

とメディアに説明しています。確かに名前と呼ばれるほうが嬉しいことは間違いありません。しかし勝負の世界となるとまた話は変わってくると思います。競技は異なりますが、あの箱根駅伝を四連覇した強豪大学を率いる監督は同じ監督という立場としてこのようなコメントをしていました。

「“お前”という言葉には相手を見下すような使われ方もあるかもしれない、けれど指導者の立場から使う『お前に頼んだ』『お前しかいないんだ』という言葉はその選手に期待を込めて言っている。」

このコメントを聞いたとき、自分の考えを代弁してくれているような気になりました。自分にも“お前”と呼ぶコーチと名前と呼ぶコーチがいます。名前で呼んでくれるコーチのほうが親近感がありますが、大事な局面では“お前”と呼んでくれるコーチのほうが言葉に責任感や重み、それに期待を感じます。勝負の世界、勝負の時には“お前”という言葉のほうが自分を鼓舞するようなものがあるのかもしれない。

これまでの事を振り返って自分が大切だと思うのは“お前”という言葉を受け手がどのように捉えるかだと思います。“お前”という言葉にはこの主張の中だけでも二つの意味が出てきました。騒動のもとになっている「サウススポー」を使用している球団のファンとしては

「ここで打ってくれ！」

という期待を込めてこの応援歌を使用していると思います。だから自分の意見としてはこの応援歌の使用は自粛しなくてもいいと思います。しかし先ほども述べたように、言われる側がどう捉えるかが大切だと思うのでファンが思う“お前”と選手が思う“お前”を一致させることが大切だと思います。